Be a Great Small.
中小機構

マッチングでUターン承継「信頼と実績」引き継ぐ インハウス（熊本県熊本市）



経営者の親族や従業員以外が事業を引き継ぐ「第三者承継」は、近年、事業承継の有力な選択肢となっている。熊本県熊本市の内装工事会社「インハウス」は、滋賀県からUターンした人材が事業のバトンを受け取った。熊本県事業承継・引継ぎ支援センターのマッチングが、経営者と後継者の縁を結び、事業継続と新たな成長の機会をつくった。



平岡康揮さん

２０２５年１月４日、「インハウス」社長の平岡康揮さん（４６）は、佐賀市の中古車販売店の改修工事現場にいた。約２５年過ごした滋賀県からUターンして初めての年末年始。６人の職人の作業を見守り、時に指示を飛ばす。３日後には、熊本県人吉市の現場での作業も始まった。

平岡さんが「インハウス」を事業承継したのは２０２４年４月。会社とともに、長年の顧客も引き継いだ。「これまでのお客さんを大切にしながら、新しいお客さんも開拓したい」。慌ただしい新年を迎え、平岡さんは決意を新たにした。

インハウスの前身、インテリアショップ「クリーン熊本」が創業したのは３８年前。
創業者の隈部龍成さん（７０）は元自動車セールスマンで、インテリア好きが高じて起業した。その後、リフォーム業にも業容を拡大した。「インテリア好きが気に入ってくれ、創業時からのお客さんも多い」と、隈部さんは語る。

後継者不在「お得意様のために第三者継承」

隈部さんは６５歳を前に、「第二の人生を楽しみたい」と近い将来の引退を決意。３人の息子は既に独立し、廃業も頭をよぎったが、「従業員と、長年のお得意様に迷惑をかけたくない」と、第三者承継を視野に入れて、熊本県事業承継・引継ぎ支援センターに相談した。２０１８年６月、センターに「譲渡企業」として登録した。



隈部龍成さん

一方の平岡さんは熊本県荒尾市出身。約２５年前に親戚が経営する滋賀県の建設会社に入った。２０１０年の独立後は、主にリフォーム工事を手がけ、業績も順調に伸びていった。

転機は２０２１年。３年ぶりに帰省した平岡さんは、年齢を重ねた両親の姿に驚いた。「両親の世話を地元にいる妹だけに任せるわけにはいかない」と帰郷を決意した。熊本での起業も考えたが、経営者仲間から「ゼロから始めるのはもったいない」と背中を押され、２０２２年１２月、熊本県事業承継・引継ぎ支援センターに「譲受者」として登録した。

マッチング「この人だったら」と確信



マッチングでつながった平岡さんと隈部さん

世代も経歴も違う２人は２０２３年９月、熊本県事業承継・引継ぎ支援センターのマッチングで初対面した。平岡さんは隈部さんの人柄に好感を抱き、隈部さんも「この人だったら、私と同じようにお客さんを大切にしてくれる」と確信した。

交渉はトントン拍子で進み、初対面からわずか７か月で事業承継を完了した。平岡さんはマッチングを振り返り、「公的機関の紹介という安心感があった。金銭面など直接話しにくい交渉もセンターが間に入ってくれ、『仲人』のようにまとめてくれた」と感謝する。

引き継ぎのため、顧問で残っていた隈部さんは２０２４年１２月末で退任した。「『お客さんを大切にする』以外は、平岡流でやってもらいたい」とエールを送る。自身は「古民家を借りて、流木アートの店も開きたい」と、第二の人生に夢を膨らませる。



インテリアへのこだわりが
詰まったインハウス社内

「平岡流」でB to Cの拡大目指す

「平岡流」の経営で目指す一つは、「ＢｔｏＣ（一般消費者向け）」の拡大。動物好きの平岡さんは、ペット対応リフォームにも力を入れる。「（起業に比べて）事業承継は承継直後でも一定の売上が計算でき、何より、信頼と実績があることが大きい。お客さんとの対話を大切に、喜ばれる提案をやっていきたい」と語る。

事業承継が２人の経営者をつなぎ、インハウスは新たな歩みを進めている。

会社概要

株式会社　インハウス

熊本市東区小山２丁目４－４５

https://inhouse-jp.com/

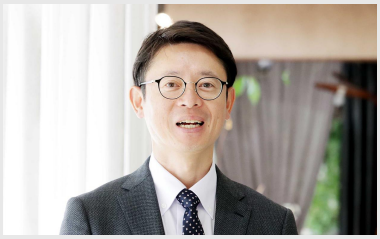
内装工事・リフォーム工事等

承継のポイント

① 譲渡、譲受双方の相性を見極めたマッチング

② 譲渡側が譲受側に任せる姿勢

③ 譲受側の資金的な裏付け



熊本県事業承継・引継ぎ支援センター

坂田祐輝・統括責任者補佐

熊本県のセンターには、譲渡企業、譲受者がそれぞれ５００社・人登録しています。しかし、譲受側が希望する業種とエリアが一致する譲渡企業はそんなに多くありません。

最も重要なのが「相性」です。最初の面談で成否が概ね決まります。隈部さんと平岡さんは第一印象がお互いによかった。

譲渡側は「譲れない点」を明確にしないといけませんが、あまり細かいことを言うと、譲受側が嫌がります。今回は、２人ともおおらかな性格で、隈部さんが「平岡さんの色を出して」と託したこともスムーズな承継につながりました。

資金的な裏付けも大切なポイントです。譲受側に資金的な余力がない場合、条件が合わずに破談する可能性も出てくる。その点で、平岡さんが滋賀でのご商売が順調だったことも大きかった。直接話しにくい金銭面などの交渉は、センターが仲立ちします。

平岡さんのように、古里にＵターンして、事業承継を希望する人は一定数います。自治体は移住、Ｕターンを推進していますが、第三者承継が広がれば、これらの地域課題を解決する大きな力になるでしょう。

（取材・編集：２０２４年１２月５日）

Be a Great Small.
中小機構

独立行政法人中小企業基盤整備機構
九州本部　地域・連携推進課
ＴＥＬ：０９２－２６０－１３５５

継ぐモノ
九州における事業承継

事業を引き渡した経営者、先代から事業を受け継いだ後継者、事業の引き継ぎをサポートした支援機関、様々な“継ぐモノ”の皆様の声や想いを紹介しています。

中小機構 事業承継 ポータルサイトはこちら▲